

## <顎関節症>

今回は、顎関節症の症状の中の一つである咀嚼障害について

紹介していきたいと思います

顎関節症は、どうして起こるのか？

咬合異常や過度の咀嚼運動によるもの、外傷によるもの（脱臼）

その後の不完全修復によるもの、関節周囲筋の不均衡による

頭骨運動軌跡の異変によるもの、その他に不良姿勢、精神的

ストレスが誘因となるもの等があります。

今回なぜ咀嚼障害を取り上げたかという「かむ」事の大切さ

を知って頂きたかったからです。

きちんと噛めない事から生じる様々な症状を「チューイングシ

ンドローム」といいます。

なぜ噛む事がそんなに大切なのか、栄養の消化吸收の為でもあり

ますが、それ以上に噛む事で脳に大きな刺激となるからです。

噛む事で歯根膜という組織が刺激を受けます。歯根膜の神経は

三叉神経という脳神経に直結しており、脳を活性化し脳血流量

が増加するのです。それにより大脳の感覚野、運動野、海馬、前頭

前野、線条体等が活性化されます。

その中でも、海馬は記憶、前頭前野は思考、判断、線条体は意欲の

中枢です。噛む事で記憶や認知機能等によい影響が出たり、生きる

事に意欲的、前向きになったりすると考えられます。

その他にも寝たきりの方が義歯を入れ、噛む訓練をしたら、自力

歩行ができるようになったという例もあります。

きちんと噛む事が健口（健康）につながります。顎関節に違和感

等、気になる方は、一度病院で診てもらって下さい。